―令和３年度浄土宗人権センター活動報告―

１．浄土宗人権センター

平成３１年４月より新たな体制で浄土宗人権センターが開設し、浄土宗の人権問題に取り組むきっかけとなった部落問題をはじめとした、さまざまな人権問題に対して啓発活動を行っております。

令和３年度においても、新型コロナウイルスの感染拡大によって、感染者や医療従事者、関係者家族等への偏見に基づく差別や、コロナ禍での社会状況の変化により、生きていくために必要な権利が脅かされるなど、さらなる人権への取り組みが必要となっています。

また 2015 年に、すべての国の人々が誰も取り残されない社会を 2030 年までに実現するため、国連総会首脳会合で SDGｓ（持続可能な開発目標）が合意され、この開発目標の１７項目のなかには、ジェンダー平等や貧困をなくすこと、平和と公正など人権問題への取り組みも含まれています。

人権センターでは、SDGs は法然上人の万人平等の教えとも合致することから、浄土宗２１世紀人権アピールを活用しながら啓発活動について検討を進めております。

今後も、さまざまな人権問題に対応するために、引き続き啓発活動等に注力してまいります。

２．浄土宗差別戒名物故者追善法要

平成２６年度までの差別戒名物故者追善法要は、「僧侶全般の意識啓発と人権意識の向上を図るため」として、平成８年から１９回に亘り地方教化センターの協力を得て厳修してきました。

地区による差別戒名物故者追善法要

しかし近年では、差別戒名墓石の関係者である寺院住職、継承者の出席が減少し、出席者の多くは役職として出席している方々が多い傾向になっている状況でありました。平成２７年度からは、より多くの教師にご参加いただけるように各地方教化センター開催の教化高等講習会に併修し、開催することで、差別戒名物故者追善法要を通して、僧侶全般の意識啓発と人権意識の向上を目指しています。

令和 3 年度は 5 地区で開催予定でしたが、新型コロナウイルスの影響を受け多くの教化高等講習

会が中止となるなか、関東、東海、近畿の３地区においては、主催教区のご尽力もあり、厳修する運びとなりました。

また、法要と併せておこなっていただく人権研修会は、浄土宗人権同和啓発講師の講演により、差別戒名問題について研鑽していただきました。

今年度は、北陸地区において教化高等講習会のなかで人権啓発研修会として、人権同和啓発講師の津田珠慶師から「SDGｓからジェンダー平等を考える」の講演が行われました。

今後、地区での法要は順次終了していきますが、修了した地区においても人権研修会の実施と、教区での法要厳修を引き続きお願いいたします。

人権研修会の様子

３．差別戒名墓石改正

本宗には、法然上人の万人平等の教えに反して、時代と迎合し「差別戒名」を付与するなど、差別に加担した消すことの出来ない恥ずべき事実があり、差別戒名墓石の改正は、昭和５８年の同和推進事務局（現在は人権センター）の設置以来、長年取り組みの課題となっております。

取り組みの結果、関係者の理解のもと、供養塔の建立をはじめとした改正作業が多くの寺院で完了いたしました。

しかしながら、未だ５ヶ寺の改正が残っている状況ですので、今後も引き続き改正作業が進むよう積極的に取り組んでまいります。

４．教区人権同和研修会開催及び差別戒名物故者追善法要厳修の勧奨

人権センターでは、教区での人権同和研修を推進するため、各教区に対して人権同和研修会開催の勧奨を行っています。多岐にわたる人権課題の中から、各教区おいて、研修するテーマを定めて、研修を行っていただいています。

また、平成３０年度より、各地区の協力を得て厳修しております教化高等講習会での差別戒名物故者追善法要につきまして、さらにすそ野を広げるため、教区での差別戒名物故者追善法要の厳修をお願いしており、近年では、栃木教区、三河教区におきましても法要を厳修いただいています。

佐賀教区差別戒名物故者追善法要

なお、佐賀教区においては、人権センターからの勧奨以前の平成５年より法要を厳修いただいております。

５．教区人権同和委員長連絡会　　浄土宗研修会館

令和 2 年度教区人権同和委員長連絡会を、浄土宗教化研修会館大ホールで開催しました。

例年は、事務連絡の後、次年度の人権研修を行う際の参考となるよう、講師を招き講演をおこなっていますが、新型コロナウイルスの影響により全面オンラインで開催のため、事務連絡のみ開催となりました。

平成３０年度ハラスメントについて
実例を交えて
講演いただいた桑野先生

６．人権同和啓発講師研修会

令和 3 年度は、新型コロナウイルス感染防止の観点から、通常 2 日間の日程で行われる研修会を 2 回に分け、令和 3 年 10 月 19 日に浄土宗研修会館を主会場にしてオンライン（WEB）による研修を行い、令和 3 年 11 月 9 日に栃木県足尾銅山へのフィールドワーク研修を行いました。

両日ともに【田中正造大学】の事務局長、坂原辰男先生に、「足尾銅山鉱毒における人権問題」について講演頂きました。

まず、足尾銅山の概要から、銅山の発展から鉱毒事件が起こることとなった原因や被害状況、銅山の経営者や政府に対して、田中正造をはじめとする住民が行った抗議活動など、様々な資料を用いてご講義いただきました。

廃村となった松木村跡の堆積場

そして、現地の研修では、足尾銅山の煙害を契機に火災がおこり、廃村となった松木村には、今でも有害な堆物質が野積みになっており、崩れやすく、決壊すれば渡良瀬川下流地域にも甚大な被害が予測されている事。また、このような危険な堆積場は 14 箇所にものぼり、いまなお、足尾銅山鉱毒事件が終わっていない状況であることを、自らの目で確かめ問題意識として持ち帰る事ができました。

（令和４年度：未定）

7．実践講座における人権学習開講

令和２年度も、すべての人の人権が尊重されることを目指し、広く人権問題について宗内の教師、寺族の人権意識向上に努めていただくために、実践講座ともいき編第２回として、「LGBTQ を学ぶ」をテーマに人権学習を行いました。

Zoom を利用したオンラインでの研修となりましたが、８０名を超える受講者にご参加いただきました。

講義では、京都精華大学非常勤講師のあかたちかこ先生から LGBTQ に関する基礎的な講義いただき、その後、LGBTQ 当事者であり浄土宗教師でもある西村宏堂師からご自身の経験と浄土宗への期待を中心にご講演いただきました。

各講師により、WEB 上から講義いただきました
写真は、袖山師による自坊から講義の様子

最後に、総合研究所主任研究員の袖山榮輝師から LGBTQ と仏教の関わりを考えるための基軸を求めるため、仏教の戒律を中心に講義をいただきました。

令和 3 年度につきましては、令和 4 年 3 月 8 日に「身近な人権問題を考える（ジェンダーの平等について）」と題して、大阪市立大学・龍谷大学非常勤講師の松波めぐみ先生をはじめ、総合研究所研究員の東海林良昌師並びに工藤量導師に、よりわかりやすく SDGｓの開発目標であるジェンダー平等の実現に向けて人権意識を高めていただける講座を開講してまいります。

8．人権アピールロゴマーク

既に宗報でお知らせのとおり、２００１年１２月に発表された「浄土宗２１世紀人権アピール」が、２０２１年１２月で２０年を迎えるにあたり、ロゴマークを作成いたしました。

ロゴマークには、私たち一人ひとりが個性豊かな人間であることを確認し、自分や仲間と違うからといって、人を傷つけたり、いじめたり、差別したりせず、法然上人が説かれたお念仏の心で、明るく正しく仲良く平等に生きていくとの思いが込められています。

このロゴマークは、教区内のお知らせ等に使用いただけますので、ご希望の方は人権センターまでお問い合わせください。

浄土宗21世紀
人権アピール

あなたとわたし　ちがうからステキ
出会えてよかった
あなたのいのち　わたしのいのち

９．啓発グッズ第５弾　一筆箋配布

人権センターでは、１２月４日から１０日の人権週間にあわせた啓発活動として、多くの寺院の皆様に人権を考えていただくきっかけになるよう人権啓発グッズを作成し配布しております。

令和３年度は、浄土宗人権アピールとロゴマークを印刷した一筆箋を全寺院にお配りさせていただきました。連絡やメモにご活用のうえ、浄土宗人権アピールの PR にご協力頂きますようお願いいたします。

R3 年度一筆箋

R2 年度人権マスクケース

R1 年度コットンバック

１０．『和合』での人権課題に関する連載

人権センターでは、平成３０年度４月号から『和合』において人権啓発に関する連載を行っています。

令和２年は、なにげなく使用していていることばや、表現に潜んでいる身近な差別に気づいていただく事を目的に『ことば・表現・差別～「あたり前」をうたがう～』と題して【おとなの学び研究会】の皆様に執筆頂きました。

また令和３年は、さらに広い視点から、人種、民族、LGBTQ に対する差別についての連載を頂きましたので、平成３０年と平成３１（令和元）年の出口芳演師、松波めぐみ氏の連載同様に、冊子にまとめ全寺院に配布する予定です。

そして令和４年は、大阪教育大学教授の森実先生に、基本の人権問題についてご理解頂けるように、初歩からのわかりやすい連載を行って頂きます。

１１．『浄土宗人権教育シリーズ』

研修会などで教材として使っていただくため、啓発冊子「浄土宗人権教育シリーズ」を刊行しています。是非、積極的にご活用いただきたいと存じます。

浄土宗人権教育シリーズ　１
『平等へのめざめ』
平成 18 年 11 月発刊
（A5 版 291 ページ ￥1,296 税込）
※４部 15 章構成
第一部 「部落史」に学ぶ
第二部 仏教の歴史と人間観の変容
第三部 釈尊と法然の教え
第四部 仏教教団の過誤と差別へのめざめ

浄土宗人権教育シリーズ　２
『社会がなした病　ハンセン病差別と仏教』
平成 19年5月発刊　（山本正廣師著）
（A5 版 96ページ ￥648 税込）
※２章構成
第一章 誤解されているハンセン病
第二章 日本人のハンセン病観の形成

浄土宗人権教育シリーズ　３
『仏教における女性観』
平成 19年8月発刊　（伊藤唯眞師著）
（A5 版 71 ページ ￥648 税込）
※３章構成
第一章 インド・中国の女性観
第二章 日本仏教での女性観
第三章 法然上人の「女人往生」思想

浄土宗人権教育シリーズ　４
『法然上人の人間観』
平成２０年９月発刊　（丸山博正師著）
（A5 版 ７８ページ ￥648 税込）
※３章構成
第一章 法然上人の文献
第二章 教義は『選択集』
第三章 み教えから探る人間観

浄土宗人権教育シリーズ　５
『業を見すえて』
平成２５年９月発刊
（A5 版 １７９ページ ￥972 税込）
※４章構成
第一章 仏教の業思想
第二章 日本の業思想
第三章 法然上人と業
第四章 まとめ
Q&A　ほか

浄土宗21世紀

人権アピール

あなたとわたし
ちがうからステキ
出会えてよかった
あなたのいのち
わたしのいのち

令和３年 12 月

発行　浄土宗人権センター